

ProMED-mail 情報 2016年 10月版

ProMED-mail <http://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介し、FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <http://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
30日	インフルエンザ(H3N2v) 米国	2005年以来米国で372人のH3N2vインフルエンザウイルスのヒト感染報告。ミシガンとオハイオ保健当局の調査で夏の農業祭の展示ブタからの感染者は計18人。過去の流行で、感染年齢の多くは18才以下。
29日	輸入マラリア	サザンプトン大学による多国間研究で、10年以上、5万以上の症例を調査。輸入マラリア症例数は、多い順にフランス(2169)、英国(1898)、米国(1511)、イタリア(637)。輸出国は、多い順に西アフリカ諸国56%、インド20%、東アフリカ諸国13%、パプアニューギニア3%。
25日	ダニ媒介性脳炎 米国	マサチューセッツで鹿ダニの2.5~10.5%にポアサンウイルス保菌。ポアサン脳炎は近年米国、カナダ、ロシアで発生。ウエストナイル熱に比べポアサン脳炎は重篤であるが、発生は極めて稀。ダニ予防が重要。
23日	セントルイス脳炎 米国	セントルイス脳炎は蚊媒介性ウイルス感染症。感染しても多くは無症状。重症化したり、死に至ることは稀。今年、カルフォルニア州8郡にわたる調査蚊で176匹にウイルス陽性、1名のヒト感染例が報告。
20日	赤痢 中国	河北省石家荘市で学童300人以上が18日午後に入院。ゾンネ菌食中毒で、重症者はいない。
16日	黄熱ワクチン	1965年から2011年までの11研究結果の4868症例を統合しメタ解析。黄熱ワクチン後の血清学的有効率は97.5%(95%信頼区間)。
14日	サル痘 中央アフリカ共和国	8月17日 Haute-Kotto州の村で死亡したハンターを初発に、26人の感染疑い入院。3人がサル痘の確定診断。サル痘は通常、感染動物との接触により伝播。患者との濃厚接触で、ヒトヒト感染の可能性あり。
13日	鳥インフルエンザ(H5N1) エジプト	今年のH5N1インフルエンザ感染者数は10人で4人死亡。2006年以降の感染者累計は356人で121人死亡。この数は、重症で入院しウイルス検査をした報告例のみで、軽症を含めた全感染者の実数は不明。
8日	カルバペネム耐性腸内細菌 米国	CDCは全米で年75000人の院内感染死亡を推定。致死率の高いカルバペネム耐性腸内細菌についての疫学調査システムは全米を網羅していない。2014年以降、ロサンゼルス市の病院で3度の集団感染あり。
5日	ジカとチクングニア ポリネシア	ジカとチクングニアの両ウイルス感染は同じ媒介蚊で同じ環境で同じサーベイランスで調査されている。ポリネシアと西インド諸島における18流行例を分析し、両ウイルスは競合的に流行したことを証明。
3日	原発性アメーバ性脳髄膜炎 オーストラリア	原発性アメーバ性脳髄膜炎(PAM)は湖川、温泉、整備不良都市水道に生息した自由生活性アメーバのネグレリア・フォーレリによる極めて稀な、致死性感染症。アメーバは鼻から侵入し中枢神経を貪食。細菌性脳炎と同症状を呈し95%の致死率。クイーンズランド州で2人報告。
3日	レプトスピラ症 日本(沖縄)	2016年8月国頭村奥間川で泳いだ8~10日後に10人の子どもと30代母親1人が発症。今年度沖縄県全体で合計30人の診断。レプトスピラ保菌ネズミやマンダースの尿に汚染された川や沼地が感染源。
2日	内臓リーシュマニア ネパール	内臓リーシュマニア(カラ・アザール)は近年ネパール南部数州に限局され、人口1万人当たり5-10人の発生率の風土病となった。2005年から実施されているサシチョウバエ駆除対策で発生率は減少傾向。
2日	ラッサ熱 ナイジェリア	今年の累積症例数は、疑い例823人、確定診断例80人、死亡例96人。予防には、国中で繁殖しているラッサウイルス保菌ネズミを駆除し、住居へのネズミ侵入防止と食材の被覆が必要。院内感染防護も課題。